南高 Forever

File008　02.2021

梨　木　幸太郎　氏

元学習指導員
（令和２年10月～
令和３年１月）

夢をもって、
まっすぐにつきすすめ！

今年度、学習指導員を配置していただけることになりました。知人から北海道教育大学岩見沢校の四年生で教員志望の方をご紹介いただき、本校で令和二年十月から令和三年一月の四か月間勤務いただいたのが、梨木さんです。

四月からは札幌市内の中学校で期限付き教諭として勤務されることが決まったそうです。

最初、学習指導員の話が来たときは、そもそも何をするのかもわからず、不安だったそうですが、教師になる前に、少しでも最近の高校生の様子を知っておきたいと考え、引き受けられたとのことでした。

実は、中学校までは勉強する意義が全く分からず、サッカーに明け暮れる日々で、成績も思わしくなかったそうです。大人になっても学び続けている教師にだけは絶対になりたくないと思っていたそうです。

転機となったのは、高校時代に出会ったサッカー部の顧問の先生の存在です。生徒のことを親身になって考え、成長を支えるために尽くしてくれた先生を見て、自分もこんな風に生徒たちの成長を間近に感じながら、それを支えることができる教師になろうと決意したのだそうです。

自分の目標ができたことをサッカー部では一年生から人柄を見込まれて学年の主将を務めることとなり、みんなをまとめていくためには、行動で見せなければという責任感が芽生えたことで、勉強もがんばるようになり、北海道教育大学岩見沢校に合格することができました。

顧問の先生は、よく「努力が報われるとは限らない。だが、努力したというプロセスだけは絶対に裏切らない」と努力の大切さを教えてくださったそうです。高校生の頃は、きっとそうなんだろうなという程度の理解だったのだそうですが、大学でもサッカーを続け、大学生活最後のインカレで初めてトップチームで全国大会に出場できたときに、やはり努力し続けたことはムダではなかったと痛感したのだそうです。

ちなみにその試合は動画配信もされており、それを見た高校時代の顧問の先生から連絡をいただいたときは、いたく感動するとともに、今度は自分が教師として生徒を育てていきたいという意志を強くされたそうです。

さて、本校での勤務は終了してしまいましたが、わずか四か月とはいえ、やってよかったと実感したそうです。規模の大きな学校では、一人ひとりが埋もれがちなこともありますが、本校では小規模であるがゆえに、先生が生徒一人ひとりに密着し、誰もが主役になれる雰囲気がいいなと思っていたとのことでした。

四月からは教師デビュー。いくつになっても自らが成長し続け、生徒たちにあんな大人になりたいと思ってもらえるようになりたいと熱く語ってくれました。

SNSには、批判が並び、リアルの社会でも「現実を見ろ」、「そんなので食っていけるのか」、「やってもムリだ」などと否定されることが多かったり、今の生徒には生きにくい社会であることを心配しており、そんな中でも自分が“夢”から逆算して、今をどうすべきか考えるようになったことで成長できた経験をもとに、生徒を元気づけ、背中を押してあげられる存在になりたいとのことでした。

四月からいよいよ教師生活が始まります。生徒のことを第一に考え、生徒をサポートしてくれた梨木さんなら大丈夫。ご活躍をお祈りしています。

〈南高生への伝言〉

まず「夢」を持とう！

「夢」から逆算して今をどうすべきか考え、まっすぐに突き進もう！

人生は一回きりだから失敗してもいいし、失敗も自分を育ててくれる財産になる。

気が付けばSNSには批判が並び、ネガティブになりそうなこともあるでしょう。周りから否定されることもあるかもしれません。

そんな生きにくい空気の中でも、他の誰のためでもなく自分のために生きてください。